

## 森林機能実演型模型を活用した「もりりん教室」について

近年、局地的な集中豪雨の発生傾向が強くなっており、全国的に山地災害が多発する傾向があります。

県では、豊かな森林を造成して県民の生命と財産を守るために「治山」（ちさん）事業」を実施しています。施設の整備はもとより、荒廃した森林の整備にも力を入れると同時に、山地災害危険地区の周知や山地災害に対する備えについて啓発活動を行っているところです。

その一環として、災害時における犠牲者ゼロを目指し、「森林機能実演型模型（通称：もりりんランド）」を活用した「もりりん教室」を開催していますので、その取り組みを紹介いたします。

もりりん教室は、「守林（森林を守るという意味）」と、森林づくりマスコットキャラクター「もりりん」にかけて名付けました。

活動の内容としては、県内の小学校などへ出向き、大分県の森林・林業の現状、森林の持つ多様な機能、山地災害の発生現象と治山施設が果たしている役割などを子どもから大

人まで分かりやすく理解して頂く、いわゆる出前講座を行っています。

現在、県内の小学校で随時開催しており、年々開催させて頂く小学校が増えています。

【もりりん教室の様子】←



また、もりりん教室で使用している「もりりんランド」は、手入れの行き届いた健全な森林と荒廃した森林の違いや、森林の持つ機能の再現、土石流や山崩れなどの現象に対して治山施設の果たす役割等を、ビーズを流したりパーツ交換等によって実演できるように開発したもので、全国初の模型と自負しています。

この模型は、可能な限り持ち運び

が容易にできるように製作しているため、もりりん教室のみならず、県民の方に対する災害説明会等のツールとしても利用できるほか、農林水産祭などのイベントにも積極的に出展しています。

【もりりんランド】←



県内には6,901箇所もの山地災害危険地区があることから、これまでも治山事業を計画的に推進してきましたが、その整備率は3割程度にとどまっています。このような状況の中で、今後もハード対策のみで県民の生命と財産を守っていくことは困難なため、ソフト対策を充実させることがますます重要になってい

ます。

未来を担う子ども達に「もりりん教室」と「もりりんランド」で森林の大切さや災害の恐ろしさを学んでもらい、安全・安心な減災社会づくりを目指すとともに、大切な森林を後世に守り伝えたいと思っています。

（森林保全課 治山班）

